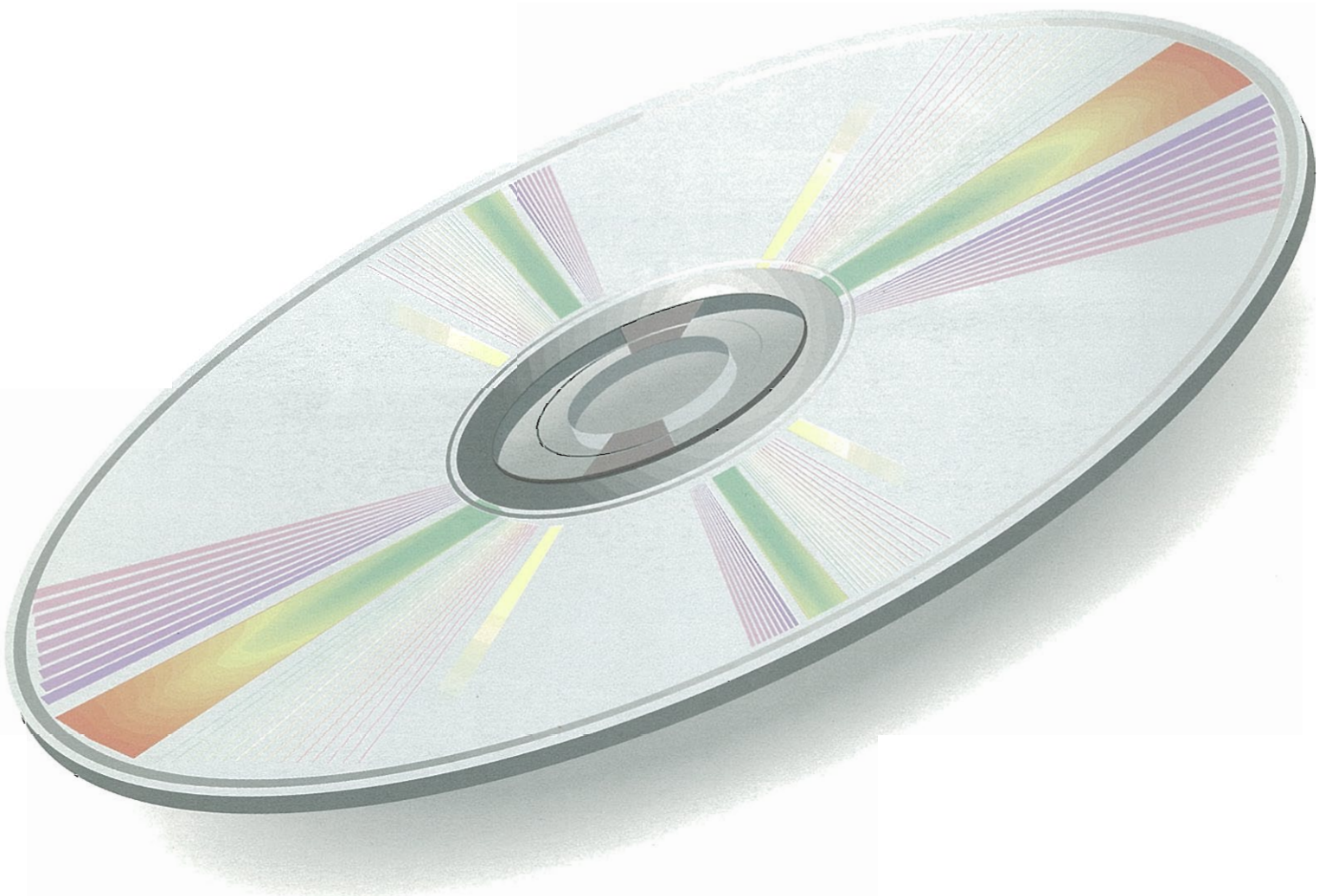
春秋彩

SYUNJUSAI
熊本県立大学・学報
1998・7
VOL.11

■春秋彩とは…
「万葉集」の額田王の春秋を論じた歌の詞書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。
「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

特集 Ⅰ　県立大学になって初めての卒業生
特集 Ⅱ　大学院アドミニストレーション研究科
　　本年4月に開設
特集 Ⅲ　モンタナ州立大学ボーズマン校短期語学研修



煌めきの時。

KIRAMEKI

木々の木漏れ日、水面に反射する陽光。今日の日も、友たちの学び舎に、語らいの場に、希望の光が降り注ぐ。限りない愛情は、様々に形を変えて友を等しく包み込む。如何なる時も光ある場所を、ただ、まっすぐに進み行くことができるよう。今こそまさに輝ける時。若く、真摯な瞳に光が満ちあふれ、未来を捕らえる力が生まれ出る時なのだから。

県大五ケ年計画

一九九八（平成一〇）年四月、わが大学は向う五年間の「将来構想」を評議会（大学の最高意思決定機関）で決定しました。

四年前、大改装成って一回りも二回りも大きく頑丈になり、目もあやなアイヴォリー・ホワイトの船体に舳（へさき）の船名も新たに舟出した「熊本県立大学」丸が、一航海終えたところで、次なる航海のための海図を用意した、ということです。

四年の歳月は大学にとって基本的なワン・サイクル。一九九四（平成六）年四月に始まった県大としての第一期は、この三月、そのワン・サイクルを完結しました。①三学部（プラス大学院）体制の完成、②生活科学部改組の着手、③大学院アドミニストレーション研究科（修士課程）の開設準備完了が、この間の成果でした。

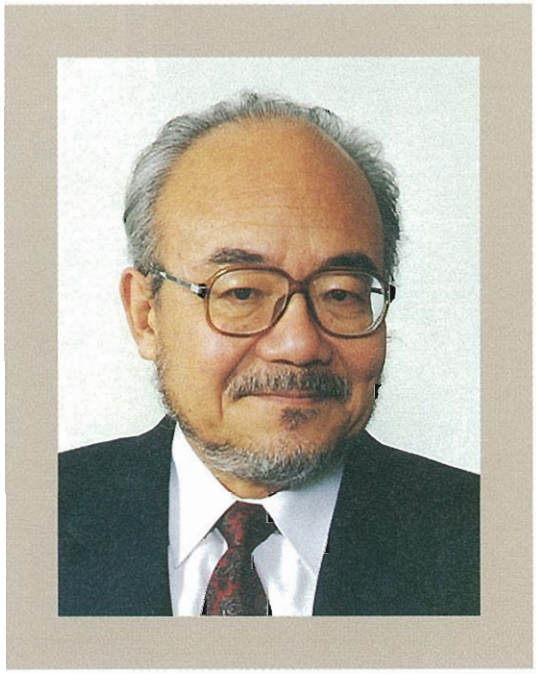
この成果を踏まえて今度決定を見た第二期の基本構想は次のとおりです。なお、第二期は、以下の2と3の完成予定年度に合わせて、二〇〇三（平成一五）年三月までの五年間ということになりました。

1．**文学部と大学院文学研究科の充実・強化。**マンモス大学の向うを張るコンパクトな総合大学としての一人文、自然、社会の一三学部体制は、各学部が均衡・調和を保つことで成り立ちます。この意味で、人文科学の重視こそ、今期の最重点課題です。

2．**生活科学部改組の発足・完成。**「環境共生学部」として理系色を鮮明にします。

3．**大学院博士課程の開設・完成。**先ずは必要性と可能性の条件の整ったアドミニストレーション研究科が先行します。

4．**教養教育の再構築。**四学年に満遍（まんべん）なく配置される教養科目（外国語と情報両リテラシーを含む）の重要性を再認識し、極力活性化に努めます。



熊本県立大学
学長　手島　孝

CONTENTS

1 PROLOGUE

2 学長のことば
県大五ヶ年計画

4 特集Ⅰ ワタシタチノコト | 県立大学になって初めての卒業生

6 特集Ⅱ ワタシタチノコト | 大学院アドミニストレーション研究科本年4月に開設

8 特集Ⅲ ワタシタチノコト | モンタナ州立大学ボーズマン校短期語学研修

10 研究内容の紹介
こんな研究、しています。
生活科学部／飯尾 豊嘉 教授・中島孫八郎 教授
総合管理学部／永尾 孝雄 教授・井田 貴志 助教授

14 guidance 学術紀要の紹介
文学部 生活科学部 総合管理学部

16 教員の紹介
我が師
文学部 重松 羅央先生
村上まどか先生
生活科学部 堤 裕昭先生

17 サークル便り
サークル活動について
野球部
吹奏楽部

18 学生の声 VOICE
最近気づいたこと
あきらめないぞ！
学生時代を振り返る

20 留学体験 随筆
トラーゲスへの道（総合管理学部 教授 赤松 秀昭）
海外留学を終えて（総合管理学部 助教授 梶所 幹幸）

21 卒業生から愛をこめて
message for you
行動ある学生生活を…（中村 レン RKK熊本放送(株)勤務）
「現在私が思うこと」（宮崎 太一 (株)熊日広告社勤務）

22 CAMPUS-NEWS

はばたく！県立大学

本学は、4年前、総合管理学部を設置するとともに全学的に男女共学とし、「熊本県立大学」に生まれ変わりました。そのとき入学した学生が、今春、卒業しました。

社会に羽ばたいたばかりの彼らのうちから4人に近況をお知らせしていただきましょう。

■平成九年度卒（総合管理学部）
読売新聞西部本社
緒方慎二郎

「事件、事故に追われて」

「プルルルル」午前二時半、電話のベルが鳴る。「起きろ！○×町でコンビニ強盗だ。現場行け！」一時間前にそこらに脱ぎ捨てた服をまた着て、そのままタクシーを走らせる。現場に到着。夢中で写真を押さえ、聞き込み。夜が明け、外が白み出してきたころ、僕は所轄の警察署にいた。

読売新聞西部本社に入社、鹿児島支局に赴任して二ヶ月半が過ぎた。担当は警察だ。事件、事故は毎日必ずどこかで起きる。窃盗事件、傷害事件、詐欺事件。交通事故、労災事故、船舶事故。火事も起これば、裁判も聞く。雨が降れば、どこかで災害が起きないか、不安で夜も眠れない。

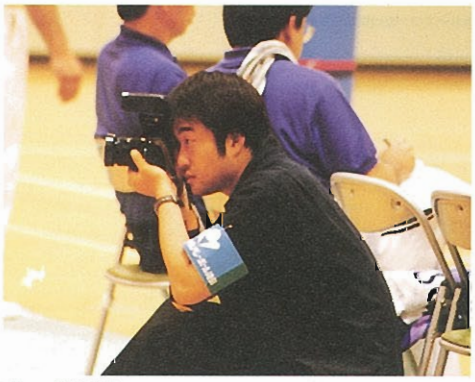
死体も見た。港に沈んだ車から上がったその死体は、ヘドロにまみれ、かろうじて男性だということが分かるだけ。カメラを握る手に、自然と力がこもる。

人間世界の中で、最も殺伐とした部分で生きる今の僕に、気の安まる暇はない。自分の時間など、まるでない。

きつい。肉体的にも精神的にもかなりハードだ。帰りの時間は、毎日十二時を回る。三時、四時も珍しくない。支局では、デスクや先輩にどなられる。現場や署では、警察官にどなられる。取材をすれば、人間同士の利害関係、恨みつらみが見えてくる。

しかし、それに見合った見返りもある。やりがいだ。自分の書いた原稿が、翌朝には新聞記事となって紙面に登場する。この記事を、何万、何十万もの人が読んでいるかと思えば、これ程嬉しいことはない。読者から記事への問い合わせがあったり、取材先からお礼を言われたり。自分の記事が社会に広がっていることを実感できる瞬間だ。新聞記者を目指し、それが実現した今、自分の選択は、決して間違いではなかったと思う。

「ピーピーピー」運転中にポケベルが鳴る。「至急、支局へ電話」の合図だ。「鹿児島本線△□踏切に爆弾みたいなもんがあるらしいぞ！すぐ現場へ行け！」方向転換、車をとばす。また仕事だ。



取材中の緒方君

■平成九年度卒（文学部）
日本エアシステム㈱
吉田みちる

私は約2ヶ月間の訓練でサービスや保安について学び、現在飛行機に乗務しております。仕事が上手くできず自己嫌悪に陥ることもありますが、「私なりのサービス」を見つけられるようお客様や先輩方との出会いを大切に頑張っていきたいと思います。

■平成九年度卒（生活科学部）
熊本製粉㈱
田中恵美子

県立大を今春卒業し、現在は上熊本駅に隣接する「熊本製粉株式会社Ｂｅａｒｓ」で一社会人として働いています。熊本製粉は製粉業・住宅事業・倉庫業を営んでおり、製粉業の研究開発部に配属され、毎日が勉強の日々を送っています。

■平成九年度卒（総合管理学部）
熊本県職員
沼野　英智

私は現在、熊本市東町にある熊本県自動車税事務所というところに勤めています。県税である自動車税と自動車取得税に関する業務を行う熊本県の出先機関です。まだ、分からないことばかりで上司や先輩方に迷惑ばかりかけていますが、ささやかにでも県民の皆様のお役に立てるよう努めて行きたいと思います。

県立大学になって初めての卒業生

学生部長　中宮　光隆

平成6年度に熊本女子大から生まれ変わった熊本県立大学の第1期生384名がこの春卒業した。

総合管理学部では、第1期生の就職対策として平成六年度から4年間に亘って行われた企業訪問や学部説明会によって県内外企業に対しての学部知名度が高まり、また、学部独自の就職ガイダンスやゼミ単位での面接による就職指導等が主体的に行われた結果、学生の就職意識も他学部の学生に比べいち早く醸成され、特に女子学生の職業観、就職観は高く、総合的に良い就職活動ができたものと考える。

他方、他学部にあっても、総合管理学部に引きづられた形で従来にも増して就職支援が活発に行われたが、専門分野業界の経営不振等―特に生活科学部では、住宅関連業界の業績不振や病院経営の経営悪化等―により採用数が減少するなどこれまでに比べ非常に厳しい就職状況であった。

その第1期生の就職率は別表のとおりであり、全体で83.3%というものであった。このうち民間企業就職希望者の就職率は全体で91.3%とある程度の数字を残せたが、公務員・教員志望者の合格率はそれぞれ58.6%、66.7%とその評価が分かれるところである。

しかし、本学第1期生の就職状況は、概ね評価できる結果であったと考えている。

特に、総合管理学部にあっては、上記のような教職員一体となった就職支援が功を奏し、熊本県内の主な企業からは、就職活動前から第1期生に対する高い評価、期待感があり、また学生も積極的に就職活動を行ったこともあり、予想どおりの良い結果となった。

だが、課題も残った。すなわち、県外企業については、学部として学生に是非就職してほしいと考える企業に対し、教職員がこの4年間企業訪問等をとおして積極的に情報の収集や学部PRを行ってきたにも拘わらず、学生の就職活動がそれとマッチせず、必ずしも期待どおりの結果は得られなかった。今後は、県外企業にも積極的にチャレンジするよう、ゼミ等での面接を通じて意識啓発を行うとともに学生のニーズを的確に把握したうえでの企業訪問や指導を行うなど、学生向けの支援を強化充実していくことが、就職支援の最重要課題と考えられる。

残念ながら、本学学生に対しては「優秀だが大人しい、男子学生より女子学生のほうが優秀である」というイメージが一部企業関係者にあるようである。一人一人の学生が自分の夢の実現に向け、強い目的意識をもって自立した学生生活を送れば自ずからそのようなイメージは打破されるものと思われる。大学としてもすべての学生が自分の夢を実現できた、満足度100%の就職状況となるような支援を行っていきたい。

H10.3.15に本学でおこなわれた卒業式

46回生最終進路状況

（単位：人）

	文学部							生活科学部							総合管理学部			総計		
	日本語日本文学科			英語英米文学科			中計	食物栄養学科			生活環境学科			中計	総合管理学科					
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計
卒業者数	2	36	38	2	43	45	83	1	38	39	0	31	31	70	90	141	231	95	289	384
1 就職希望者	2	32	34	2	36	38	72	1	36	37		26	26	63	77	130	207	82	260	342
決定	2	18	20	2	35	37	57	1	33	34		23	23	57	63	108	171	68	217	285
未決定		11	11		1	1	12		3	3		2	2	5	13	21	34	13	38	51
一時的な仕事		3	3				3					1	1	1	1	1	2	1	5	6
就職率	100.0%	56.3%	58.8%	100.0%	97.2%	97.4%	79.2%	100.0%	91.7%	91.9%	—	88.5%	88.5%	90.5%	81.8%	83.1%	82.6%	82.9%	83.5%	83.3%
2 進学		2	2		3	3	5					1	1	1	7	5	12	7	11	18
決定		2	2		2	2	4					1	1	1	6	1	7	6	6	12
未決定					1	1	1								1	4	5	1	5	6
3 その他					1	1	1		2	2		4	4	6	3	5	8	3	12	15
資格取得のための勉強																2	2		2	2
留学 決定												1	1	1					1	1
未決定												1	1	1		1	1		2	2
なし 無業					1	1	1		2	2				2	2	1	3	2	4	6
一時的な仕事															1	1	2	1	1	2
結婚												2	2	2					2	2
4 不明		2	2		3	3	5								3	1	4	3	6	9

	文学部							生活科学部							総合管理学部			総計		
	日本語日本文学科			英語英米文学科			中計	食物栄養学科			生活環境学科			中計	総合管理学科					
	男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計		男	女	計	男	女	計
就職希望者数	2	32	34	2	36	38	72	1	36	37	—	26	26	63	77	130	207	82	260	342
民間活動①	1	19	20		32	32	52	1	23	24		22	22	46	53	103	156	55	199	254
公務員受験②		5	5	1	2	3	8		8	8		3	3	11	24	27	51	25	45	70
教員受験③	1	8	9	1	2	3	12		5	5		1	1	6				2	16	18
就職決定者数	2	18	20	2	35	37	57	1	33	34		23	23	57	63	108	171	68	217	285
民間企業④	1	13	14		32	32	46	1	22	23		21	21	44	49	94	142	50	182	232
公務員⑤		1	1	1	1	2	3		6	6		1	1	9	15	14	29	16	25	41
教員⑥	1	4	5	1	2	3	8		3	3		1	1	4				2	10	12
民間企業就職率④／①	100.0%	68.4%	—	—	100.0%	100.0%	88.5%	100.0%	95.7%	95.8%	—	95.5%	95.5%	95.7%	90.6%	91.3%	91.0%	90.9%	91.5%	91.3%
公務員合格率⑤／②	—	20.0%	—	100.0%	50.0%	66.7%	37.5%	—	100.0%	100.0%	—	33.3%	33.3%	81.8%	62.5%	51.9%	56.9%	64.0%	55.6%	58.6%
教員合格率⑥／③	100.0%	50.0%	55.6%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	—	60.0%	60.0%	—	100.0%	100.0%	66.7%	—	—	—	100.0%	52.5%	66.7%

※学校事務、学校栄養士合格者は公務員希望として算出。

大学院アドミニストレーション研究科 本年四月に開設！

本年4月、本学に、総合管理学部を基礎とする大学院アドミニストレーション研究科（修士課程）が全国で初めて開設されました。本学の大学院は平成5年に開設された文学研究科のみでしたが、これで2つの研究科で構成されることになります。

このアドミニストレーション研究科に、本年4月、17名の新入生が入学しました。昼夜開講制が実施され、社会人の方も多数おられます。

アドミニストレーション研究科1年
小原　正巳
（熊本県職員）

本年4月に開設された当アドミニストレーション研究科において、熊本県からの派遣研修という形で研究を行うことになりました。これからの自治体職員として必要となる政策形成能力の向上、また経営的な視点を身に付けること等を派遣の目的としており、第1回目の研修生として成果をあげるべく張り切っているところです。

研修にあたってはなるべく多くの科目を履修することを心がけましたが、現在（前期）は、社会・公共領域の科目が中心となっています。講義内容は多岐にわたり、中でも特別演習においては地方自治制度を含めて行政について広く研究しています。また様々な立場の方がおられることから院生同士による議論からも学ぶところ大きいものがあります。議論の中では行政に対する厳しい意見の出ることもありますが、謙虚に耳を傾けることも重要な意味を持つと考えています。

「渡辺教授の特別演習での小原さん」

今後は、県における他の研修ではあまり見られない経営領域についての研究のほか、論文作成を含む幅広い研究を行うことにより、福祉、都市、環境あるいは産業、文教など行政課題のあらゆる分野に対応できるような総合的な視野、また論理的な思考力を身に付けたいと考えています。また、そこで得た知識、経験については自らの担当業務はもちろん、他職員との交流という形を通じても実際の行政運営に活かしていきたいと考えています。

アドミニストレーション研究科1年
有富　和徳
（㈲星子凸版印刷工場 取締役専務）

私が、父の創設した会社の経営に携わるようになって既に10年。実際の経営に携わってみて、その難しさと、面白さに魅せられてしまいました。

これからの日本経済は、企業の自然淘汰が益々進んでいくものと考えられます。聖書曰く、「持っているものは得、持たないものは持っているものまでも取り上げられるであろう」（マタイ、25-29）。そんな日本経済の潮流にあって、我々中小企業や零細企業の経営者は、何を考え、どのように行動しなければならないのでしょうか。ひとたびこの世に企業として生を受けたのであれば、どんなに小さな企業であっても、必ず人の生活を賄っており、淘汰されてよい企業というのは1つも無いのではないかと考えます。そこで「淘汰されない中小企業づくり」を研究するために、大学院に入学しました。

入学しての感想を一言でいうと「とてもきつくて、とても楽しい」です。レポートが重なるときは、夜中まで作業に追われたりもしますが、それをやり遂げたときの爽快感は、格別です。最近、学問が、スポーツをするのに似ていると思えてきました。これほどの充実感を味わうことは、一生のうちでもそうはないでしょう。

これからの目標としては、英語力、ディベート能力の向上、そして、最終的には、中小企業の守護神として、経営者の方々をサポートできれば幸いであると考えています。

定年退職後に学ぶ

アドミニストレーション
研究科1年
川端　忠義
（元小学校教員）

私は教員を定年退職したら、好きな山歩きや菜園づくり等をして、のんびりと過ごそうかなあとも思っていました。

しかし、のん気に過ごして頭を使わないと早くボケてしまうのではないかという心配もありました。それで、退職後の昨年4月から県立大の公開講座を九講座受講しました。

約40年ぶりの大学の講義の受講でした。どの講座も講義要綱や資料、そしてビデオやスライドの視聴覚教材などが準備されていましたので、頭のかたい私も理解することができ、学ぶ楽しさもわかり始めました。

今年になって、研究科の開設を知り、受験し、入学を許可されました。公開講座の受講生は、私のような60才台の方も少なくありませんでしたが、大学院では私1人がとびぬけて高齢で、みんなについていけるか心配しています。

手島学長からは、「修論は今まで研究されている学問の最高レベルをマスターしたものでなければならない」と言われていますので、私は修論が書けるか不安になってもいます。

特別演習は、今川先生の研究室で地方自治論をていねいに教えていただいています。私は、住民を主権者とする地方自治のあり方、地方分権、行政改革、また、地方自治の効率性と民主性等を研究し、自分が住んでいる地域社会へ研究したことを理論的にも実践的にも寄与することができたら、幸いだと思っています。

「今川教授の特別演習での川端さん」

「大胆な仮設を」

総合管理学部長
（アドミニストレーション研究科長）
渡邊　榮文（写真中央）

□1998年4月に総合管理学部を基礎として「アドミニストレーション」（administration）の深奥をきわめるための全国初の大学院としてアドミニストレーション研究科修士課程が開設されました。17名の大学院生が、日夜研究に励んでおります。

□アドミニストレーション研究科は、わが国唯一の大学院ですので、わたくしたちが先頭に立ってこの分野の学術理論を構築していかなければなりません。したがいまして、わたくしたちは大変難しい課題を背負っております。人間の集団的営為としてのアドミニストレーションは、非常に複雑で多岐にわたる社会現象です。これを統一的に把握し説明するための理論は、開発の途上にあります。

□このような課題へチャレンジする場合、仮説を立ててみるという方法があります。自然現象ならぬ社会現象を解明する場合にも、仮説は必要です。アドミニストレーション研究科では、大学院生とともに大胆な仮説を立て、それを慎重に検証し、アドミニストレーション学の確立をめざしております。

アドミニストレーション研究科

1. 公共行政（パブリック・アドミニストレーション）と企業経営（ビジネス・アドミニストレーション）を学際的・総合的に教育研究し、アドミニストレーションをトータルに認識しようとするものです。

2. 高度の学際的知識を修得した専門的職業人の養成（①パブリック・アドミニストレーションに関する高度な専門的知識・能力及び「哲学」的根本思想と経営マインドを併せ持つ行政マン、②ビジネス・アドミニストレーションに関する高度な専門的知識・能力を持ち、企業の公共性や社会的責任を自覚するビジネスマン）や、我が国初めてのアドミニストレーション研究科として、未開の分野に貢献する学術研究者の養成を行います。

3. 昼夜開講制の実施

社会人の受け入れを積極的に進めるため、昼夜開講制を実施しており、夜と土曜日だけの受講（2年）で修士論文の作成で修士の学位が取得可能です。また、特別講習は昼夜合同で実施し、異なった知識・経験を持つ学部出身学生と社会人学生及び外国人留学生が議論し、研究する場とします。

平成10年度アドミニストレーション研究科入試状況　（　）は女性再掲

区分	定員	志願者	受験者	合格者	入学者
一般選抜	14名	9（1）	9（1）	6（1）	5（0）
社会人特別選抜		36（8）	35（8）	11（4）	11（4）
留学生特別選抜		2	2	1	1
合計		47（9）	46（9）	18（5）	17（4）

モンタナ州立大学ボーズマン校 短期語学研修

■概要

1982年、熊本県とアメリカ合衆国モンタナ州の間に姉妹州県締結がなされ、その後両州県で大学間交流も進められてきましたが、熊本県立大学でも留学希望者が増えてきたため、平成9年9月にアメリカ合衆国モンタナ州立大学ボーズマン校(Montana State University-Bozeman)及びモンタナ州立大学ビリングス校(Montana State University-Billings)と学生交流協定を締結しました。

このモンタナ州立大学ボーズマン校短期語学研修は学生交流協定のひとつとして、国際的感覚を身につけ異文化理解を深めることを目的とし、平成10年2月17日から約3週間の日程で行われました。モンタナ州立大学校国際教育センターの専門スタッフによって特別に作成されたプログラムを基に、英語やアメリカ事情などに関する研修を行いました。また、モンタナ州立大学の学生と共に授業やエクスカーションを行い学生間の交流を深め、さらにホームステイを通して日常生活を体験し、地域住民との交流を行いました。

オリエンテーション：研修初日に研修期間中の日程説明や諸注意があり、歓迎会が開かれた。

英語の授業：10人程度のクラスに編成され、聞く力・書く力・話す力の各分野をモンタナ州立大学の英語職員が担当した。

アメリカ文化セミナー：歴史、文化、環境問題といった様々な題材を取り上げた。

例・ロッキー山脈地域の歴史や自然、野性動物について

・アメリカ原住民学文化（ネイティブ・アメリカンの学生が実際に授業に参加します。）

・日本語コースの授業への参加

スキー：モンタナは世界有数のスキーリゾートを有しており、この研修でも地元のスキー教室に参加した。

宿泊：大学近くのホテルに11泊、ホームステイが7泊。

エクスカーション：モンタナ州には、2つの有名な国立公園があり、その1つ、イエローストーン国立公園への2泊3日のエクスカーションがあった。ロッジに宿泊し、野性の動物の観察や、国立公園の関係者からの説明を受けた。

今回の研修は初めてということもあり、文学部英語英米文学科三木悦三教授が引率してくださいました。

また、平成9年度は30人募集したところ24人の希望者があり、希望者全員参加することができました。今回の研修は予想以上に参加した学生に好評でした。平成10年度もまた、第2回目の研修が企画される予定ですので、興味のある人は奮って応募してください。

やっぱりBOZEMANに帰りたい…

総合管理学部・総合管理学科　守江　信顕

私が飛行機から下り立った地は、何か違う臭いを感じるモンタナ州のボーズマンという町でした。憧れの地であったアメリカにやってきたことへの喜びと不安の入り交じったまま、生活が始まり、毎日の出来事が新鮮に感じられました。その中でも私達の語学研修が行われたモンタナ州立大学は、活気のある大学でした。そこで私達が出会ったものは、学生の生き生きとした姿でした。人々が生き生きとしている姿を見る度に、羨ましいと思い、それは、その人達と話をすることで特に感じられました。彼らは積極的に大学で活動をしており、話をした学生に〝私は大学生活を楽しんでいるよ。あなたもおいで！〟言われたときには〝そうしたいよ〟というのが素直な気持ちでした。私には、彼らがしっかりした目的意識を持って学生生活を送っているように見えて、これからの大学生活について彼らから多くのことを学んだような気がしました。

私達がモンタナに3週間滞在したうちの10日間は、ホームステイでした。私はモンタナへ出発する前からホストファミリーはどんな人達なのだろうということを考えていた。それはホームステイをする前日まで変わらず、少し不安で、〝ホームステイの心構え〟のプリントを熟読したぐらいでした。しかし、いざ、ホストファミリーに会うと、その日の内にうちとけて、それまでの不安もなくなってしまいました。ホストファミリーはとても親切にしてくれて、私の話を熱心に聞き、分かってくれようとしました。私も身ぶりを交えながら、何とかして伝えようとするけれども、それが伝わらないときには自分のボキャブラリーの不足を痛感し、もっと英語を勉強しようと思いました。ホストファミリーとの別れが近づくにつれて、もっと一緒にいたいと思うようになり、ホストマザーから〝あなたも家族の一員よ！〟と言われたときには、ぐっとくるものがありました。私は今でもホストファミリーのことを自分の家族だと思っています。

それから滞在中に私達の世話をしてくれたアシスタントの人達との思い出は忘れられません。私達のグループは24人で他の学校のプログラムよりも人数が少なかったせいもあって、アシスタントの人達とみんなが仲良くなることができました。それは、とても良かったです。アシスタントの人達と話をしたり、遊んだりしているうちに、自分が積極的になっていくのがわかり、グループ間での仲も深まったような気がします。私はアメリカで出来ることを全てやって帰ろうと考えていました。そして、それを実現させてくれたのは、アシスタントの人達のおかげだと思っています。今回、私は迎えられる立場でしたが、逆の立場になったときに自分も人に喜ばれるような行動ができたらと思います。

このプログラムで私が何の不満もなく、とても楽しい日々を送ることができたのも多くの人達の助けがあったからだと思っており、感謝しています。3週間のモンタナでの体験は、決して忘れることの出来ない思い出となりました。そして多くの人達との出会いは、私のかけがえのない宝です。これを機会に姉妹校関係がさらに深まることを期待しています。そして、また必ずモンタナに行きたいと思っています。

ボーズマン校から来学

平成10年5月13日、本学と学生交流協定を締結しているアメリカ合衆国モンタナ州立大学ボーズマン校のマイケル・オウエン国際交流委員長兼ビジネス学部長、ノーマン・ピーターソン国際教育局長及びベス・ダベンポート国際教育局職員の3名が来熊し、17日まで滞在しました。オウエン氏らは学生交流等で多くの実績がある熊本学園大学や熊本大学を訪問した後、14日には本学を訪問、手島学長を表敬しました。表敬には、国際交流委員、図書館長、外国語センター長も同席し、相互理解と今後の交流を深めるため、1時間ほど意見交換が行われました。

意見交換の後、図書館、情報処理室、大講義棟、外国語センター等を見学したオウエン氏らは、今年2月ボーズマン校の短期語学研修に参加した本学学生たちとの交歓会に出席しましたが、わずかな時間しかなかったのですが、2ヶ月ぶりの再会に学生たちは歓喜していました。

昨年9月の学生交流協定締結後、初めて今回ボーズマン校の関係者が来学された訳ですが、始まったばかりのボーズマン校と本学との学生交流を今後、さらに充実しながら進めていくにあたって、両大学の関係者が胸襟を開き話し合ったことは大変有意義なものでありました。

病気を防ぐ食事成分

飯尾 雅嘉 教授

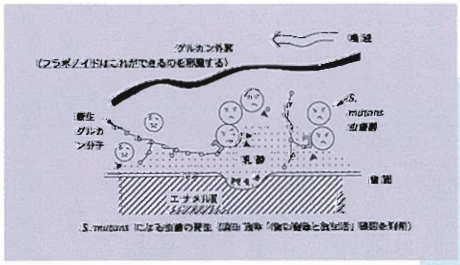
第二次世界大戦の敗戦から半世紀以上が経過し、国民の多くが飢餓に苦しんだその当時からは予想もできない程に食糧や食品が私たちの身のまわりに溢れています。よく知られているように、栄養学もそのような経緯を反映して「欠乏の栄養学」から「過剰の栄養学」へと視点や対象を変えてきました。日常の食生活における過剰栄養の継続は成人病、改め「生活習慣病」を引き起こします。生活習慣病は、糖尿病や循環器病やガンなどを指しますが、偏った食生活や運動不足を中心とする日頃の生活のあり方（ライフスタイル）が原因となるのでこのような名前がついています（このため、小児成人病という変な病名もなくなります）。生活習慣病は動物性脂肪などのカロリーの摂りすぎという側面に加えて偏った食事からももたらされます。病気の原因は食事にあり！ということです。

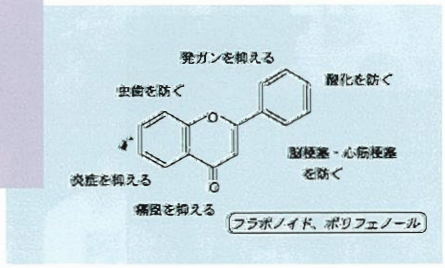
しかしながら、それと同時に「赤ワインは狭心症を防ぐ」、いわゆるフレンチ パラドクスに見られるように、食品の中には生活習慣病を防ぐ成分があることも知られるようになってきました。ですから、私たちは五大栄養素（脂質、糖質、タンパク質、ビタミン、ミネラル）さえ摂っていればいいというわけではありません。

私の研究室では同じ学科の太田直一先生の研究材料でもあるフラボノイドという食品成分を主な対象にして病気を防ぐ食品成分というテーマで研究を続けてきました。フラボノイドは多くの植物に含まれる黄色い苦味成分として嫌われものだったのですが、いろいろな働き（生理作用）があることが分かってきました。私の研究室では、このフラボノイドが、歯垢、虫歯の原因となるベタベタ物質をつくる虫歯菌の酵素の邪魔をしたり、炎症の原因となる反応を抑えたり、痛風のもとになる尿酸の合成を抑制することなどを見つけました。

他の研究室でも、フラボノイドが脂質の酸化を防いだり、化学発ガンの発生を低下させたり、などなど、多くのことが見つかり、研究が活発に進行しています。

フラボノイドのほかにも、多くの食事成分が様々な働きをすることによって私たちの健康を支えてくれることが分かってきています。今後は肥満を防ぐ食事成分も見つけてみたいと考えているところです。米、大豆、魚、それに野菜と果物を組み合わせた日本食の良さを科学的に見直しながら研究を続けたいと思っています。





「問題意識」を大切に…
研究は科学的自己主張

中島熙八郎 教授

わたしの研究室では、「研究室」として継続的に取り組む農山村地域研究と、毎年「卒論」で研究室に参加してくれる4年生の「自主研究」との二つの柱が在ります。

農山村研究…農業・農山村地域は数十年来「厳しい」という「枕詞」抜きには語られることが無いほど、将来見通しの暗いものとされています。しかし日本の、特に農山村の自然・人文景観は世界的にも最も美しいものです。日本の文化や気候・自然環境もその存在を基盤として成立しています。食料生産も含め、将来にわたって大切にして行かなければなりません。欧米では「田舎暮らし」を求める人口移動が始まっています。21世紀、本当の「成熟社会」を創り上げる中で「農山村」の存在が必ずやその重要性を増すことでしょう。わたしの研究は、そんな展望をもって、農山村の素晴しさを当該の農山村居住者自身で再発見してもらい、同時にそれ以外の人々にも広げることがテーマです。具体的には①農山村の素晴しい空間・景観の成り立ち、構築・維持するための「自前技術」の解明。②空間の仕組と使い方が持つ環境共生的優位性の解明。③農山村が有する地域資源の正しい活用方法の探究等です。特に近年は③の課題に就いて、「農村型リゾート」に関する全国自治体調査、関連施設利用者調査、地域住民調査等全国調査、今年からは、遊休資源としての「空家・農地」等の活用状況等についての全国調査を進めています。

自主研究…卒論研究は、一種の練習研究ですが研究には違いありません。「研究」である以上、自ら課題を設定し、その解明のために調査や資料を集め、それらに基づいて論理を展開することが求められます。もちろん、前提となる知識も不可欠です。そして、最も強調したいことは、その論証は「世界で唯一」の貴重な科学的貢献になるということです。卒論の学生には、自主研究を勧めます。自らの問題意識を大切にし、「研究」が何か非日常的な特別なものではなく、社会・生活に根差すものであり、従って研究主体もわれわれ自身であることも理解して欲しいからです。自主研究を進めるため、研究のテーマ・学説史・方法・結果についての「研究ゼミ」と社会や各自の問題意識に関わる情報・知見を広めるため、新聞記事からの報告、関連文献の集団学習などの「学習ゼミ」を毎週開いています。（今年は特別に「イタリア語」講座も週一回やっています。）

今年も「色彩の地方性」、「現代韓国住宅の発展過程」、「住宅の相続・継承に関する意識状況」「子供部屋の計画論」、「日本のアールヌーヴォー」、「住宅と居住者との主体的関わり」、「住宅団地と交通生活」、「公衆便所考」、「過疎地の高齢者福祉」など、多彩なテーマに取り組んでいます。研究としては未熟なものかもしれませんが、そこに含まれる視点・発想は新鮮で刺激的なものが少なくありません。

私の研究内容
―法哲学及び法思想史、そして生命倫理学―

永尾 孝雄 教授

「先生は大学で何を教えていらっしゃるのですか？」
「法学です。」
「あっそうですか。で、法学のどの分野がご専門ですか？」
「法哲学です。」
「ホウテツガク？　（しばし、沈黙…）そりゃ、一体どんな学問ですか？」

法哲学者にとって一番困るのはこう聞かれる時だ。「憲法学（あるいは民法学）を研究しています。」と答えると、即座に「なるほど！」と好意的な反応が返ってくるが、「法哲学」では聞く方に予備知識がほとんどないので、会話が一時途切れて気まずい雰囲気となる。法学と哲学の境界線あたりに位置づけられる学問分野であるがゆえに、端的でわかりやすい答えなどありえない。「法哲学とは何か。この問いに対する答えは、厳密にいえば、法哲学者の数だけある。」（碧海純一著『法哲学概論』）という学説もあるほど、法哲学の定義づけは難しい。説明しようとすればするほど、自分も相手も理解不能、進むことも退くこともできない、まるで袋小路に入ったような、そんな状態に陥るのである。

しかし、法哲学にもいくつかの古典的でかつ普遍的な問題がある。法と道徳、法と正義、自然法と実定法、法と強制等々の問題がそれである。私の研究の具体的内容は、このような法哲学上の主要問題と格闘し続けることによって形成されたということができよう。

思うに、私の学問研究の出発点は学生時代にあったといえる。学園紛争、ベトナム戦争、70年安保といった時代に学生生活を過ごした私は、他の多くの友人と同様に、マルクスの思想に傾倒した。哲学の恩師・滝沢克己先生（元九州大学文学部教授）の教えに導かれてマルクスの『経済学・哲学草稿』、『経済学批判』等々の諸著作を読み進んだ。まるで子どもが横綱と相撲をとるようなものであった。何度読んでも理解できず、途中で止めては、また読み始めるという七転び八起きの連続ではあったが、しかし、私は、このようなマルクスとの思想的・実存的対峙によって、はじめて、自己の生涯をかけた研究テーマである「ヘーゲルの法思想」と出会うことができたのである。

永尾孝雄
ヘーゲルの近代自然法学批判
A5判　200頁　3,400円
本書は従来の、フランス革命同調か保守的反動か、キリスト教的か汎神論的か、といった不毛な二者択一的ヘーゲル理解を斥け、特に近代自然法学批判および人倫概念の形成という視点から、ヘーゲル法思想の全体像を解明しようとした本格的なヘーゲル法哲学研究である。
[98] ISBN 4-87378-534-0

最近、九州大学出版会より上梓した拙著『ヘーゲルの近代自然法学批判』は、まさに私のこれまでのヘーゲル法哲学研究の暫定的総括ともいうべき書物であり、青年期から今日に至る、実に20数年に及ぶ学問的歩みの一果実であるということができる。（内容紹介をかねて、出版社の図書目録のPR文を掲載させて頂く。関心のある方は是非、読んで下さい。）

このように書いてくると、私の考察は100～200年前の哲学や思想だけに向けられているような印象を与えるが、必ずしもそうではない。むしろ私のモットーは「温故知新」すなわち「故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る」にある。一方で、近代哲学の原点であるカントやヘーゲルの思想を考究しつつ、他方で、20世紀末の現代特有の諸問題と取り組むのが私の基本的な研究姿勢である（理論と実践の統合）。近年の「生命倫理学」に関する研究はその好例である。

数年前、法哲学・刑法学の専門の先生方と共同して、現代ドイツの著名な法学者、アルトゥール・カウフマンの著作を翻訳・出版した（上田健二、竹下賢・永尾孝雄・西野基継編訳『法・人格・正義』）が、この仕事が「生命倫理学」を本格的に研究するきっかけとなった。現在、「西日本生命倫理研究会」に属し、医療関係の先生方とも協力して学際的な共同研究を進めている。

私個人の学問的関心が「生命倫理学」へと傾斜するに従って、ゼミ生諸君の研究報告のテーマも微妙に変化している。因みに、平成10年度3年次ゼミ生の既発表のテーマ群を少し列記すると次の通りである。「末期医療と患者の人権」「安楽死と尊厳死」「脳死と臓器移植」「臓器売買について」「在宅介護をめぐる諸問題」「選択的夫婦別姓」等々。

環境問題を経済学で考えよう

井田 貴志 助教授

さまざまな社会経済問題を解決するために、さまざまな「政策」が実行されています。経済学的な政策とは何らかのインセンティヴを与えることによって、人々の行動（消費行動や生産行動など）を変化させることを意味します。もちろん、直接的な規制という手段も多く用いられてきましたが、私たちが自ら意思決定をして行動することの重要性が再認識されているのではないでしょうか。

私の研究分野はミクロ経済学やマクロ経済学といった経済学の基礎理論を応用した公共経済学と呼ばれるものです。公共経済学は「市場の失敗」や「政府の失敗」という観点や政治経済学的観点からなども展開されています。公共経済学が対象としている内容は、公共財供給、最適課税、公的規制、公債、年金、福祉、少子高齢化、公共事業、環境、地方分権など多岐にわたっています。このような諸問題に対して、政府が取るべき最善の行動とはどのようなものなのか、という問いに対する答えを出すのが公共経済学の役割なのです。

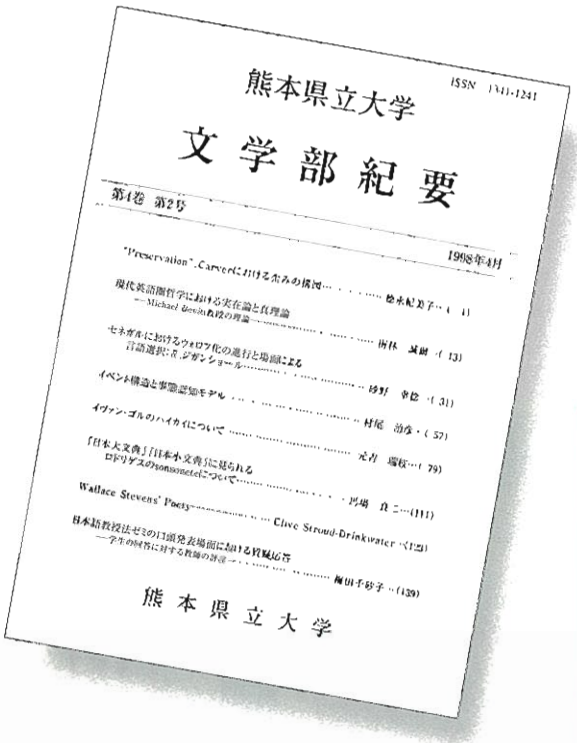
最近の研究テーマは環境問題です。とくに、地域固有財であるコモンプール財の維持管理システムの経済管理分析をしています。ほんの少し前までは、日本の多くのところで人々の身近なところに自然環境が豊富に存在していましたが、現在では、都市部はもちろんのこと本来の自然環境が存在しない地域が多くなってしまいました。日本には、「山・野・河・海」に代表されるコモンプール財がたくさん利用可能でしたが、その維持管理システムの崩壊と共に私たちの身近な自然が失われてきたと考えられます。21世紀に向けて、再び身近なコモンプール財を利用可能にするために必要な施策について、モデル分析と同時に実証分析も行っています。

次にゼミ活動について紹介します。井田ゼミの3年生は、毎年開催される日本学生経済ゼミナール大会に参加することにより、ゼミでの研究成果を発表しています。今年も12月に関西大学で開催されますが環境経済部門へ参加します。今年の研究テーマはごみ問題における行政の対応を中心としたもので、まさに公共経済学的な課題なのです。熊本市、玉名市、荒尾市、水俣市などのごみ行政を調査し、今日的かつ最善の対応は何か追究していく予定です。ゼミ生は、理論グループと調査実証グループに分かれて各自の担当パートについて検討を重ね、最終的に一つの体系的な論文を作成します。この大会に参加することにより、他大学のゼミ生との交流も出来るので有意義なものであると思っています。

学術紀要の紹介

本学での研究成果を公表するための「学術紀要」。
今回は、各学部から出されている最新の学術紀要に掲載されている論文のいくつかについて、それを執筆された先生に一口コメントをいただきました。

文学部



熊本県立大学
文学部紀要
第4巻 第2号
ISSN 1341-1241
1998年3月

"Preservation", Carverにおける歪みの構図……徳永紀美子…(1)
現代英語圏哲学における実在論と真理論
—Michael Devitt教授の理論—……梅林 誠爾…(13)
セネガルにおけるウォロフ化の進行と場面による
言語選択：II：ジガンショール……砂野 幸稔…(31)
イベント構造と事態認知モデル……村尾 治彦…(57)
イヴァン・ゴルのハイカイについて……元吉 瑞枝…(79)
『日本大文典』『日本小文典』に見られる
ロドリゲスのsonsoneteについて……馬場 良二…(111)
Wallace Stevens' Poetry……Clive Stroud-Drinkwater…(123)
日本語教授法ゼミの口頭発表場面における質疑応答
—学生の回答に対する教師の評価—……梅田千砂子…(139)

熊本県立大学

「"Preservation"；Carverにおける歪みの構図」……徳永紀美子

カーヴァーの作品では、ありふれた日常の場面が、可能な限り切り詰められた表現によって、奇妙に歪んだ空間に潜り込んでいくということが起こる。読み手は、書かれなかった部分を、まるで発掘した破片を繋ぎ合わせて壺でも修復するように、想像力を動員させられる。それが、謎解きのようでけっこうおもしろい。

一度その過程を文字でやってみたかった。しかし、一応論文なので文献もかなり必要なのだが、注文していた本が幸か不幸か間に合わなかった。そこで、作品に沿って細かな解釈を試みてしまった。おかげで、論文らしくはないけれどやりたかったことは達成できた。

村上春樹のおかげで知名度が高くなったカーヴァーのおもしろさを一部分でも紹介できていれば嬉しい。欲を言えば、この言い訳を紀要の隅にでも「あぶり出し」かなにかで載せてもらえればもっとよかったのに、と思う。

「現代英語圏哲学における実在論と真理論——Michael Devitt教授の理論——」梅林 誠爾

小論は、1996年8月から1997年7月までのアメリカ合衆国メリーランド大学カレッジ・パーク校（Maryland University At College Park）における研修結果の報告である。Dr. Michael Devittは、研修中指導していただいたメリーランド大学教授である。

「セネガルにおけるウォロフ化の進行と場面による言語選択：II：ジガンショール」……砂野 幸稔

96年度から文部省の科学研究費補助金（国際学術研究）を受けて行っているアフリカの多言語社会の文化問題に関する調査の報告のひとつです。この町を含め、これまでセネガルの6つの主要な都市で約2000人に対面調査を行いました。おかげで下手だったウォロフ語が少し上達しました。

「イベント構造と事態認知モデル」……村尾 治彦

最近の言語研究は、言語学という狭い範囲においてではなく、神経科学、心理学、情報科学などの、脳と心の働きを解明していく分野を包括的に扱い、体系付けていこうとする「認知科学」の中で行われる傾向があり、本研究もそのような観点から、人の心の概念的表象部分である認知構造と言語の構造の表象的部分を有機的に結びつけるインターフェース的機能を果たすレベルに注目し、考察を行った。

「イヴァン・ゴルのハイカイについて」元吉 瑞枝

20世紀の初めヨーロッパで、日本の俳句が紹介され始めた初期の時代に、それを真似てハイカイと名付けた3行詩を試みた詩人達がいるが、その中に、リルケやゴルもいる。特に、常にアヴァンギャルドの渦中に身をおいていたゴルにとってのその意味を、リルケと比較しながら論じたものである。

「『日本大文典』『日本小文典』に見られるロドリゲスの sonsonete について」…馬場 良二

最近は日本語が上手な外国人が増えたよね、あの人達はどこで日本語を勉強したんだろう。日本で生活してるうちに、なんとなく自然に覚えたのかも知れないね。ところで、世界で最初の組織的な日本語教育は何か知ってる？　この九州が世界最初で、それはキリシタンの宣教師たちの学校なんだ。ロドリゲスってのはポルトガル人の宣教師の一人で、彼は文法書を書いた。何しろ15、16世紀の日本語についてアルファベットで書いたわけだから、当時の発音を知る資料としては第一級だよね。sonsoneteというのは、その中で使われている用語で、国語学の世界では「鼻にかかった発音」のことだってなってんだけど、ポルトガル語の原文を丹念に読むと単に「よくない発音」というぐらいの意味しかないみたいなんだ。その辺を整理してみたってわけ。オモシロイよ。

guidance

総合管理学部

「カウツキーの高度資本主義観
——ベルシュタインとの比較——」……久慶 清俊

ソヴェト・ロシアにおける共産党支配体制の崩壊は、レーニン・スターリン型の社会主義の破産を意味した。また中国、ヴェトナムでも市場経済の導入が急速に発展している。他方、資本主義経済はますます発展しているかに見える。いったい社会主義とは何であったのか。別知の修正主義論争を現代的視点から取り上げて考察してみた。

「アドミニストレーション論序説」……渡邊 榮文

わが国においても「アドミニストレーション」という新分野を開拓するための研究が、とくに熊本県立大学を中心に制度化され始めました。本稿は、アドミニストレーションの序論的な問題を扱うもので、アドミニストレーション学の構築に向っての第一歩です。

「行政改革の基本方向
——体験的行政システム変革論——」……片岡 勉

厚生事務次官の福祉汚職、大蔵省の底知れぬ不祥事など、行政（官僚）の失墜堕落は止まるところがないが、何故そうなったのか？筆者の官僚体験も踏まえ、行政を取り巻く環境の変化と遅れたシステムの両面から分析し、改革の基方方向を提言する。

「組織学習と国際合弁事業
——韓国における日韓合弁事業を中心に——」……黄 在雨

組織論（主に企業組織）と比較経営論を専門とする私にとって、単数代表としての外国は研究のホーム・グラウンドである。なぜなら、組織と経営の実践がすでにそこにあるからであり、別に異様な世界に踏み込むからといって大げさな精神性を要求されることもないからである。

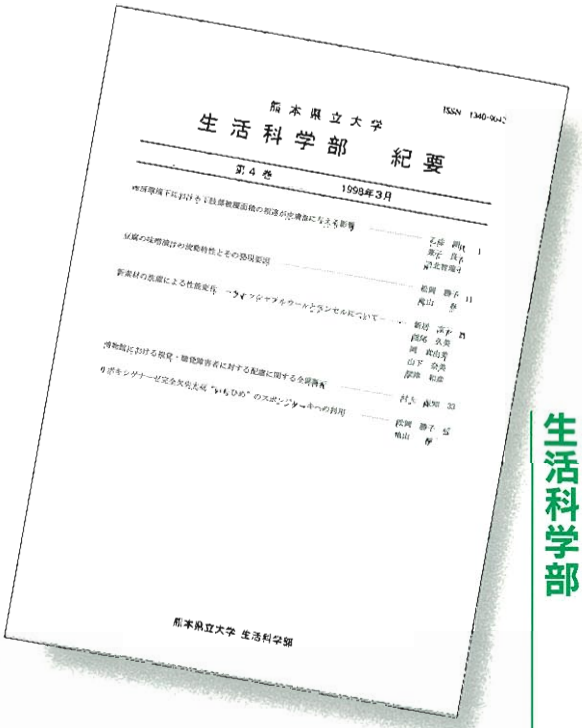
今回の研究のために、中国と韓国に行かせてもらった。それにしても、冬の中国では大陸の冷たい風が骨にしみるほど寒かったし、夏の韓国では逃げ場のない熱気で息苦しいほど蒸し暑かった。日常的ではない寒さと暑さは複雑な人間の欲求を妙に刺激する。そのせいかどうかはわからないが、否応なく響ってくる気持ちの良い疲労感は人間を妙に動機づける。ここでは、何らかの振る舞いができるのだ。

日本に帰ってくると、日常的な不条理にいつもいらいらする。名前で中国人によく間違える、韓国人である私にとって、半ば日常化されている外国呼ばわりされる外国という言葉はすでに意味をなくしている。限定された時間を生きる人間が、空間的配置にいくら精を出してもそれはただの技にすぎない。

しかるべき研究生活のドメインと私を取り巻く日常性との間に形成されている大きな隙たりは依然として猛威を振るうつもりだが、ここで何らかの振る舞いを模索しながら暮らしていくためには、この程度で丁度いいかもしれない。

「総合型CASE間評価法に関する一考察
——開発工程を引き継ぐ情報を可視化——」……藤尾 好則

30年昔にもコンピュータを開発するには、まずそれを設計するためのコンピュータを作ることが一番の近道だった。



生活科学部

「冷房環境下における下肢部被覆面積の相違が皮膚温に与える影響」……乙益 紀代
兼子 良子
田北智瑞子

冷房環境下で長時間安静の場合、冷えを感じることがある。

そこで、下衣のスカート丈を変化させ、生理的負担について実験検討を行った。皮膚温の変化から露出率が影響していることが認められた。

「豆腐の味噌漬けの流動特性とその発現要因」……松岡 勝子
亀山 春

豆腐の味噌漬けのなめらかな舌触り（塑性流動型）は、電子顕微鏡観察や熱分析の実験から豆腐が低温で長期間味噌の中で浸けられている間に豆腐の蛋白質構造の崩壊や水の存在状態の変化によって発現したと分かった。

「新素材の洗濯による性能変化
——ウォッシャブルウールとテンセルについて——」……新居 京子
稲尾 久美
岡 真由美
山下 奈美
深津 和彦

「テンセル」は、英国コートルズ社が溶剤紡糸法で企業化したセルロース繊維である。1990年に日本にサンプル供給され、綿やレーヨンとは異なる独特の風合いを持つことから、その後国内で積極的に加工開発や商品開発が進められてきた素材である。

「博物館における視覚・聴覚障害者に対する配慮に関する全国調査」……村上 良知

博物館は重要な生涯学習の場ですが、展示物を見たり聞いたりできない視・聴覚障害者にはさまざまな工夫が必要です。これは全国の博物館の配慮内容などの調査をまとめたものです。今後手法の検討をする予定です。

「リポキシゲナーゼ完全欠失大豆"いちひめ"のスポンジケーキへの利用」……松岡 勝子
亀山 春

九州農試で作出されたリポ欠大豆の開発利用官民交流共同研究の一環として小麦粉スポンジと同等の食味評価が出来、また過酸化脂質、Nヘキサナルが共に少ない健全性にも優れた本大豆利用のスポンジケーキが試作できた。

「Das reale Bild der Zivilistik im 19. Jahrhundert in Deutschland」……Hidetake Akamatsu

著者の1996年10月から1997年9月までの、ドイツ連邦共和国、フランクフルト（マイン）大学における、在外研究の成果の一部を記録したもの。19世紀ドイツにおける市民法原理の成立過程を明らかにすることが本稿の目的である。

現在、ニーズに合った情報システムを開発するには、方法論と設計するための道具"CASE"が必須だ。その活用しだいで情報システムの出来映えが決まる。

「最小Pixel数によって生成される平面の自己相似タイル張りについて」……真広 泰造

これらの図形（タイル）は自己相似性と呼ばれる面白い性質をもっています。境界部分は非整数次元!?をもついわゆるフラクタル集合です。より高次元でも同じものを考えることが出来、いろいろな予想がなされています。

「ホーチミン（ベトナム）とバンコク（タイ）からの報告」……立山 敏男・松岡 泰

大学では毎年多くの「地域貢献研究事業」を実施しています。その一つ、アジアネットワークフォーラムも2回目を迎え、タイとベトナムから学者と経済界代表を招聘することとなり、その打ち合わせと現地への進出企業視察のために両国を訪れました。

英文学とローンテニスを愛する'exotic'な先生

文学部4年
北里多恵子
森田　智覚
（英文学研究室）

前期の英文学セミナーでノーベル賞作家 W.Goldingの The Pyramidを読んでいる。中産階級出の青年Oliverの Bildungsromanだ。成熟か、喪失の確認か。テクストは無論英語版。（翻訳は出ていない？）担当は'exotic'な重松隆矣先生。数頁の要約・重要な文節の朗読・注釈の割り当てがある。次いでカウンター気味のQ&A、そして鋭く切れ込む注解の講義。作品がイギリスの文明と風土に肉付けされて私たちのカラダに入り込む。これが読むということか。講義では生の英語がポンポン入る。原義が傷むのを惧れるかのように。聞き慣れるととても解り易い。第2研究室はいつも学生に開放されているが、この日ばかりは手ぶらでは来られない。火曜が近づくと体調が下降する。〝Give us a break!〟ご趣味はダンディーブランディーヴィヴァルディーと見ていたが意外に活動的だ。ご夫妻でローンテニスを愛される。本学テニス部長、県テニス協会副会長。熊本国体に向けてお忙しそうだ。

文学部　教授　重松隆矣（写真中央）

予習あり、発表あり、毎回宿題ありやりがいのある英語学セミナー

文学部4年
笠　由可里
（英語学研究室）

村上先生による「英語学セミナーⅡb」では、現在統語論の研究をしています。統語論とは「語を統合して句や文を作る際の規則性を明らかにする」学問ですが、このセミナーでは〝The Analysis of Sentence Structure（文構造の分析）〟という文献を勉強しています。

授業の際には予習が前提で、持ちまわりで担当箇所の内容を発表するという形をとりながら進められます。発表の途中で難しい部分は先生に解説して頂いたり、学生から質問したりで理解できない箇所がないように進められるのでとてもわかりやすいです。時には、自分の予習不足のために説明に困り、冷や汗をかくこともありますが、予習あり、発表あり、毎回宿題あり、でやりがいのあるセミナーと言えます。

今後は〝Second Language Acquisition（第2言語習得）〟について勉強する予定で、英語を学ぶ私達にはもってこいの文献だと思っています。私自身、非常に楽しみです。

文学部　講師　村上まどか（写真中央）

生活科学部　助教授　堤　浩昭

環境問題から「不思議味のカレー」までとても気さくでとても御多忙

生活科学部4年
石澤　紅子
（生物学研究室）

堤先生の研究室に所属するようになって、まだ3ヶ月程ですが、私の知る限りの『堤先生像』を述べさせていただきたいと思います。

私は1年次に堤先生の講義を受けていましたが、現在と以前ではかなり印象が変わりました。講義の時の堤先生は、質問応答ポイント制、A4 10枚レポート、テストの採点の厳しさで知られ、結構厳しい印象を学生は持っていると思います。でも、研究室での堤先生は、私たち学生にも気さくに話してくださいます。とてもお話し好きでいらっしゃるので、私たちも話しやすく研究室はいつもにぎやかです。話の内容は、先生のお子さんのこと、学生時代のこと（フォーク研究会だったそうで、ギターも演奏していただきました）、趣味のボーリングのことといったプライベートな話題から、環境問題や研究についてといった難しい話まで、目をギラギラさせて熱く語られます。

実は、堤先生は大変グルメな方で、食べ物にもこだわりを持っておられます。シュークリーム、モンブラン、ラーメンのおいしいお店はかなりチェック済みです。また、先生お手製の『不思議味のカレー』は、代々研究生にごちそうされているらしく、私たちもぜひ今度ごちそうになりたいと思っています。

堤先生はお酒を飲まれなく、ノンスモーカーの健康的な方ですが、会議・出張・サンプリングと大変お忙しく、最近は栄養計算ソフトを開発され、休む暇なく働いていらっしゃいます。しかも、大の甘党で刺激物（辛いもの）も大好きでいらっしゃるので、お体が心配です。そのように御多忙な中でも私たちの卒業研究にも気をかけて下さり、感謝しています。

私たちの研究室がにぎやかで楽しそうだと言われるのも、堤先生のお人柄あってのことだと思います。これからも、私たち研究生が卒業研究に力を注ぎ、よい結果をだすことで日頃お世話になっている恩を返していけたらと思っています。

サークル便り

サークル活動について
「サークル活動の勧め」

晴れ渡った青空の下、ガウンを身にまとった学生の希望に満ちた笑顔が輝いている。今年3月15日、県立大学一期生の卒業式での風景。卒業式を終えた後、花束をいっぱい抱えた先輩の記念写真を、賑やかにサークルの後輩が撮っている。その横を寂しそうに横切る卒業生の姿があった。

4年前、県立大学は総合大学として再スタートした。その後、男子学生を中心にサークルの新設が相次ぎ、サークル活動は活発になった。

その頃の一期生は、自分たちのサークルの理想を掲げ、形あるものに創り上げようと必死だった。それは、大学のためでもなく、誰のためでもなく、自分自身のために活動していた。そのバイタリティたるや眼を見張るものがあった。

そのようなサークルのひとつ、軟式野球部が全国大会に出場した。ベスト4進出を賭けた試合で立命館大学と対戦。相手に先制されたものの中盤で追いつき、そのまま互いに追加点が取れぬまま延長戦へ突入。その延長10回表、追加点のチャンスがあったものの得点できず、その裏相手に得点を許し、悔しいサヨナラ負けを喫した。

試合後ベンチ裏で、選手全員が座り込んだまま、堪え切れず熱い涙を流していた。そこだけ時間が止まったかのように、誰も動こうとしなかった。

選手達はそのことを一生忘れないだろうし、貴重な大学時代の経験となったことだろう。

サークル活動は、大学時代のひとつの過ごし方に過ぎない。しかし、数多くある過ごし方の中で、多くの友を作り、たわいのない話や悩みを打ち明け、その中から一生の友を得ることができるのはサークル活動かもしれない。そしてその中で、この先のバックボーンとなるような経験を積んでもらいたい。

最近の就職活動では、大学の勉強は当然として、その他学生時代にどのような経験をし、その経験によりどのように成長し、どのような能力を身に付けたかが問題になってきている。大学名不問や面接重視の選考方法が採られ、その個人の人間性、人格が問われる時代となってきたということである。

残念ながら、4年前のサークル設立当時と比べ、各サークルの活動テンションが落ちてきているように思う。設立当初活発だったサークルも人数が減り、存続が危ぶまれるサークルさえある。その反面、好きな仲間と好きな時に活動できればいいという馴れ合い的なサークルが増えている。

大学時代の貴重な時間を無駄に過ごすことなく、今しか味わえない感動や生涯の友を得るためにも、是非「悔し涙」が流せるようなサークル活動を行って欲しい。

大学生活に確たる目標がなく、やみくもに日々を過ごしてしまっているあなた、あなたも卒業式の日、後輩に囲まれて記念写真が撮りたいと思いませんか？

野球部

総合管理学部　3年
野田　恭右

野球部は今、8月にある全国大会へ向けて毎週火・木・土曜日、練習に励んでいます。去年、おとしと南九州リーグで春秋共に、鹿児島経大に勝つことができず、香川県で行われる準優勝チームだけの全国大会出場にとどまっていましたが、今年はついに念願の全国選手権大会出場を果たしました。今年で5年目の野球部ですが、今の2年3年は合計七名しかおらず、四年生が引退してからは、3人しか練習に来ないという時期もあり、マネージャーの方が選手より多い日も多々ありました。選手が7人そろったとしても思うように練習はできず、活気もなく、せっかく今年の卒業生が同好会としてスタートさせて努力して部にした野球部が廃部になるのではないかと心配していました。しかし、1年生が硬式経験者7名計8名入部し、また元気がよくまとまりもあるので、今では練習中の雰囲気もだいぶよくなりました。そのうえ1年生はみんな有望なので、この先のチームの成長がとても楽しみです。また彼らのおかげで活気づいただけでなく、まともな練習がやっとできるようになり、後は夏の全国大会に向けひたすら練習するだけです。当然、入ったばかりの1年生もその全国大会に出場でき、活躍するのを期待しています。

最後に、野球部に入りそこねた人がもしもいたならば、大歓迎いたしますので、ぼくらとともに「全国制覇」目指して、野球に遊びにがんばりましょう。

吹奏楽部

総合管理学部3年
筒井　健久

我々吹奏楽部は、月・水・金の週3回、第2グラウンド横の第3サークル棟で練習に励んでいます。本学が熊本女子大学から熊本県立大学へと生まれ変わったと同時にできたこの吹奏楽部も、第一代目の先輩方が今年卒業され、ますますの発展を遂げています。現在の部員数は23名と、過去最高の人数になっておりますし、また、楽器の数の方も、熊本県立大学後援会のご支援により、とても充実してまいりました。

活動実績としましては、昨年夏、熊本県吹奏楽コンクールに初出場を果たし、見事に銀賞を獲得することができました。また、昨年本学開学50周年を記念して、三枝成彰氏によって新しく作られた大学歌「宙へ」の披露、録音や入学式、卒業式での演奏等、学校行事での演奏も盛んに行っております。本年度は、夏に、メルパルク熊本にて、初の学外演奏会を開催するはこびとなっております。その他、学園祭での演奏や、他大学との交流など、1年間を通して様々な演奏活動を行っています。

また、本サークル内の雰囲気は、先輩・後輩の上下関係もなく、容易に溶けこむことのできる親しみやすいものですので、楽器経験者はもちろんのこと、音楽に関して何もわからない初心者まで、十分に楽しむことができます。そんな我が部ですので、演奏活動のみならず、部員全員での合宿、宴会等を行うことも多々あります。我々の団結力は演奏時はもちろんのこと、これらのイベント時にも発揮されています。

このように、間もなく創部5周年を迎えようとしている我々吹奏楽部は、様々な問題を抱えながらも、大学関係者をはじめとする多くの方々に支えられ、その活動を着実に進歩させてきました。まだまだ未熟な私達ですが、今後も更なる清栄のため、日々練習に励んでいきたいと思っています。

「H10.7.16. メルパルクでの演奏会の後」

I C E

最近気づいたこと

文学部
日本語日本文学科3年
宮川 佳代

大学は「好きなことを好きなだけできるところ」で、それができるのが大学生活だと思っています。ただ、私はその意味を履き違えていました。「好きなことだけをやっていればいい。」と思っていたのです。

日本語日本文学科に来たんだから日本語や文学だけやってあとは遊んだり、バイトをしたりする時間にあてたい。それ以外のことをするのは時間の無駄だと。

でも教養や、第2外国語の講義を受けてみて、今までとは全く違うフランス語という分野に興味をもつことができました。これらの講義は可能性を広げるためにあるものなんだなあと実感できたんです。その可能性が広げられたことにすごく感謝しています。

大学生活、何が幸いするか分かりません。無駄だと思っていることでも、実際やってみると、本当は自分を向上させるきっかけになるかもしれないのです。だから、最初から好きなことだけを選り好みするのはとてももったいないんだと思いました。

そしてもう一つ気付いたこと。それは、好きなことをするためには、それだけの義務というか責任を負わなければならないのだということです。人と接する上では、自分の行動に責任がもてないと、多くの人に迷惑をかけてしまうんだということを知りました。

逆にいえば、やるべきことさえきちんとやったら好きなことを好きなだけやってよく、それを見つけるチャンスは、沢山存在しているのだということです。

そのチャンスを逃さないためにも、勉強だけじゃなく、バイトやサークル、遊びなどいろんな方面に挑戦し、経験を積んでいければいいなあと思うし、それができるのは、やっぱり大学生の間だけだと思っています。

あきらめないぞ！

最近いろんなことに首をつっこんでいる。そのおかげで自分の常識がくつがえされるような軽いショックも経験した。ただの好奇心だけで参加していたので、お遊びやあこがれだけでやっていけない世界を目のあたりにしたり、自分と違う個性に接することもあるからだ。

中でも特に印象的で私に良い影響を及ぼした人がいる。私の勝手な解釈であるが彼らを紹介したいと思う。

まず、東京から熊本に遊びに来た友達。彼女は会う人ごとに仲良くなり、お互いに「親友」関係を築いていく。彼女は人が大好きで、素直に自分をぶつけて甘えているからであろう。彼女から、私が苦手としていた「あるがままの自分でいること」を学んだ。そして、自分を大切にしていれば人にも優しくできると知った。

そして、留学経験者の友達。彼は初対面である私にも自分の経験談や趣味や考えを話してくれた。彼は音楽が好きで、その方面の仕事がしたいと言っている。毎日パソコンの前に座って就職情報を集めている彼の姿に自分自身を妥協させない強い人だと感じた。

講演会でお会いした主婦の方にもそれを感じた。その方はその講演者のファンでおっかけでやってこられたのだが、その熱心さに新鮮さを感じたのだった。とても博学でいろんなジャンルの本を読んでおられて、主婦の枠にとどまっていない姿に頼もしさを感じた。

これらの人々に共通していえるのは、遠慮せずに自分の意見を言い、新しいことにぶつかっていく積極的な精神である。そして、好きなことを自分のものにしようとがんばっている。

私は彼らから、自信や積極性を学んだ。彼らは人に見せようと思って強がっているのではなく、自然に自分を出している。

今、私はいろんなことに取り組み、その中で自分探しをしているのだが、自分を見せる人ではなく、彼らのように自然に自分を出せる人になりたいと思う。あきらめないぞ！

総合管理学部
総合管理学科3年
福川 美里

VOL.

学生時代を振り返る

生活科学部
生活環境学科4年
古島 民夫

「大学時代に注力した活動は」と聞かれると、学業はさておき、まず答えるのが「あしながの会」活動である。「あしながの会」とはあしながの育英会という、父母のいない学生に対する奨学支援団体のことで、このあしながの育英会と知り合うようになってもう4年になる。私自身が奨学金をお借りすることに始まり、そうして「あしながの会」に携わる方々と出会い、意義を学び、活動へと至った。

遺児のつどい、街頭募金、ボランティアウォークといった活動の運営スタッフを行う上で、いろんな方々と知り合った。私と同じような父、母のいない学生で、家庭の事情に正面から向き合い、必死に自分の夢を目指して頑張る学生や、楽しく、有意義なイベントを創るのだという目標に向かい、一生懸命活動を続ける学生ボランティア達、またそうした学生を支えてくださる人生の先輩方とも出会うことが出来た。自分自身がいかに努力を怠り、過信して行動してきたかを思い知った。そしてまた、私がこうして生活が送れているのも、母をはじめ沢山の方々の恩恵があったからであることにも気が付いた。私も皆にうして気が付くと、大学も4回生となっていた。

学生生活も4回生を迎えた現在は、卒業論文を中心に1日が流れ、昨年までの「昼間大学、夜間あしながの会」という生活はなかなか送れないではいる。けれど、特に夜間など卒業論文をめていると、「あしながの会」をふと思い出す。皆が頑張っている姿を思い出し、私も頑張らねばと眠気も冴える。本当にこうした活動に出会えたと思う。

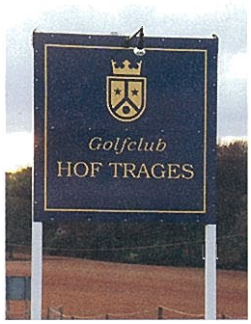
今後私は専攻する住居学で生かさなければならない。「あしながの会」は人と人との連携を学ぶ場である、と私は思う。そして大学で学について学習をしている。住居は建物と人とのつながり、住居生時代に年齢を問わずいろんな方々と出会い、対話ができたことはこれからへの大きな学習である。来年、大学卒業という大きな節目を迎える。「あしながの会」で知り合った多くの方々の、かけて下さった言葉を大切にし、またこれからもいろんな方と出会い、学習していきたいと思う。

トラーゲスへの道

■総合管理学部 教授 赤松 秀岳（平成8年10月から平成9年9月までドイツに留学研修）

トラーゲスとは、目下私の最大の研究対象であるドイツの法学者、フリードリッヒ・カール・フォン・サヴィニー（1779～1861）が、ドイツ中部、現在のヘッセン州ハーナウ市の近郊に有していた領地のことである。そこには、今でも、サヴィニー家がなお続いているという。サヴィニーは、しばしばトラーゲスの小さな城で、ドイツ・ロマン派の詩人達と遊んだとも伝えられる。そのトラーゲスは、私にとって、まるでメルヘンの中の桃源郷のような、憧れの地であった。トラーゲスの名は、書簡集などサヴィニー研究の史料にもしばしば登場する。たとえば、サヴィニーのアイヒホルン宛て1813年12月3日付けの手紙（Stoll II, S.94）には、次のような一節がある。「私の領地トラーゲスは、ハーナウから15マイルほど入った、フライゲリとトというところにありますが、そこで、コザック兵が略奪行為をしようとしていたようです。領地の管理人は、急ごしらえのプロイセン貴族［の名に］よって、領地を救いました」。この年は、ナポレオンが敗退した、いわゆる解放戦争の年である。サヴィニーは、すでに3年前からベルリン大学教授の地位にあり、トラーゲスには不在であったが、ナポレオン戦争の影響はトラーゲスにも及んだようである。混乱に乗じてコザック兵により略奪されかけたが、サヴィニーが置いていた領地の管理人はとっさの機転でここが「プロイセン貴族」の領地である旨告げて、略奪を思い止まらせた、という話なのであろうか。トラーゲスに対するサヴィニーの愛着ぶりも伝わってくる。

ところで、今回の在外研究中、私は、この憧れの地トラーゲスをついに訪れることができた。滞在もちょうど半ばの1997年4月7日、各駅停車の列車しか止まらない、最ももよりのローデンバッハという駅から、いくつかの丘を越え森を抜けて、まるでメルヘンのような街道を15キロほど歩いて、私はトラーゲスにたどり着いた。暗い森が突然終り小高い丘の上から見下ろす景色の中に、トラーゲスはあった。なだらかな丘が続き、太陽の光が降り注ぎ、広々とした草原が輝いている。中央には、バロックのかわいらしい城が、屋敷森に囲まれている。屋敷森の一角には、サヴィニー家の私有の教会堂（私有の教会堂はドイツでも大変珍しいとのこと。ここにサヴィニーが今も眠っている）の尖塔が見える。そこは、一見して、とても豊かな領地のように見えた。ただ、一つだけ驚いたことがある。それは、今、サヴィニー家がこの領地で、ゴルフ場を経営していることであった。日当りよくなだらかな、昔の最高の農場は、現代ではゴルフ場としても最適であるということであろうか。ドイツでも近年盛んになったゴルフは、まだまだお金持ちのスポーツらしく、領地の一角にある駐車場には、ベンツやBMWなど高級車ばかりが停められていた。



憧れの地トラーゲスが、今はゴルフ場で、ロマンティックな夢が破れた、とは決して言うまい。トラーゲスを自分の目で見たことで、これから、サヴィニーの書簡集などもより具象的に読めるようになることは確かである。いずれにせよ、こうしてサヴィニーの実像にまた一歩近づけたことは事実である。

その後、1998年3月、このトラーゲス城から図書、絵画、陶磁器、家具などサヴィニー家所有の品々が売りに出され、オークションが行われ話題となった。トラーゲスは、今でも、サヴィニー研究者の関心の的である。

随筆

海外研修を終えて

■総合管理学部 助教授 税所 幹幸（平成9年4月から平成10年3月までアメリカに留学研修）

平成9年4月から1年間、ニューヨーク州、オールバニにあるニューヨーク州立大学で研修する機会を得た。オールバニは、ニューヨークから北へ約150マイルの地点にあり、州都になって昨年が丁度200年であった伝統的な市である。これといった産業があるわけではなく、市全体も決して活気があるわけではないが、アメリカの中でも古い歴史を感じさせる静かな町である。家族と伴にここに住み、アメリカでの体験の中で印象深い一面を紹介してみることにする。

アメリカ生活を始めた頃、スーパーなどでアメリカ人が進路を妨げたり、ぶつかりそうになると、「Excuse me」あるいは「Sorry」と声をかけたり、アパートの近くの道路を歩いていると、見ず知らずの人や中学生ぐらいの子供でもすれ違う時、気軽に「Hi!」と声を掛けてくれとても親しみを覚えた。これらは我々が忘れかけている人間的なゆとりを思い出させてくれたできごとであった。

学校に関しては、公立学校であれば、高校までの教育費は無料であり、子供達はゆとりのある学校生活を送っていた。大学生や院生は自分で学費を稼いでいる学生も多く、目的意識を強く持ちつつ学生生活を楽しんでいた。研修中、日本人留学生たち（女性が多かった）と話す機会があったが、皆、目的意識を持って勉学に励んでおり、彼らを見ていると頼もしく感じられた。

ショッピングモールなどへ出かけていくと、車いす、盲導犬や歩行器を利用した身障者の方達がショッピングや食事を楽しんでいるようすをよく見かけた。駐車場には身障者のための駐車スペースが建物の入り口に最も近い場所に確保されており、低床のバスの運行、道路と建物の床に段差がないなど身障者に対する環境作りができ上がっていた。アメリカの社会全体が身障者に対して開かれているのを感じるとともにその根底にある自由と平等の精神をも感じた。

アメリカ人は物に対して合理的な考えを持っている人が多い。毎週土、日になると「ガレージセール」が至る所で開かれており、不必要になった衣類、食器や家具などを庭先に並べて販売していた。我々も帰国前に「ムービングセール」を経験した。案内を張り出した後、買いにきてくれる人がいるのだろうかと気をもんだが、車からフォークまで売ることができ、アメリカの思い出を一つ作ることができた。ムービングセールに来た人達を観察してみると、物と値段が妥当であれば中古品でも全く気にしないように見受けられた。

アメリカは日本と比べると家や土地が安く、物価も低い。アメリカの消費税について紹介してみると、州によって税率が異なり、ほぼ5～8％程度である。ニューヨーク州では8％で日本よりは高いが、ほとんどの食料品に対しては無税であった。また、州によっては一定以下の価格の衣類、靴など身に着ける物には消費税を掛けていなかった。すべての消費に対して一律に税を掛けるというわけでなく、さまざまな工夫がなされていた。

アメリカでの限られた期間の体験なので断片的な紹介に終わったが、この研修は、日本の外から日本を客観的に見ることができ、自分自身をも見つめ直す機会であった。

平成３年度卒（文学部）
中村　レン
RKK熊本放送㈱勤務

行動ある学生生活を…

ついこの間卒業したばかりだと思っていたのに在学期間をはるかに超える月日がたっていました。まだまだ毎日が慌ただしく自分の生活や生き方をふりかえる時間もないままこうしてメッセージを書くのはすごくおこがましいような気もするんですが、ちょっとは先輩だということで許してください。

私が大学の時は大学自体を物足りなく思っていたことが随分ありました。学生は少ないし交通の便は悪いし活気はないし…。今でもそう思っている人がいるかもしれませんね。でもその状況から抜け出すのは、自分自身の行動しかないと思います。考える事はいつでもできますが、経験するのは今しかできません。頭でっかちにならずに、今行動してください。やりたいことがあったら寝らずにでも全部やってください。明日のことなんて考えなくてもなんとかなるのが学生の特権ですから。そうするとあなたには「経験」という財産が増えます。貯えるのは今です。でないといざ社会に出るときに何の「売り」ももたないことに気が付きます。

大学はもうひとつ、「友人」という財産を得る最後のチャンスでもあります。何の利害関係もなくあなたの傍にいる今の友達が、後々どれほど支えになるかは、私より先輩がたがもっともっと実感なさってる事でしょう。

最後に。私は仕事柄たくさんの人に会って話をするチャンスがありますが、その中にどんなカオでも何を着ても魅きつけられる人がいます。もう一度会って話をしたいと思う人がいます。皆さんにはできればそんな人になってほしいなと思うのです。目に見えるものや肩書きに固執して「○○の妻です」「○○さんと知り合いです」なんて自己紹介する人にはならないで下さい。いずれなくなるものに固執して暮らすよりは消えることのない財産を数多く身につけ、自分に自身をもって生きるほうがステキだと思いませんか？

卒業生からのメッセージ

message for you

平成９年度卒（総合管理学部）
冨崎　太一
㈱熊日広告社勤務

「現在私が思うこと」

普通に通い慣れていた道や店が、今ふと立ち寄ってみると、以前感じていたものとは違う、また別のものを感じるようになった。これは、仕事に結び付けることのできる何かを探しているからではないか。そう考える今日この頃である。

最近、卒業アルバムが届いた。ページをめくるごとに、大学時代の宝物が次々と私の目に飛び込んでくる。友人とサークル活動に燃えたり、楽しく様々なことにチャレンジした日々がなつかしく感じられる。

「開拓者であれ!!」。大学の野球部の監督から頂いた言葉で、今一番私が心に留めている言葉である。現在勤めている会社で、先輩が築かれた道を守りながら、また自分にしかない新たなレールを敷くための自分の器を今築いている途中である。

最後に、今までお世話頂いた多くの先生方、本当にお世話になりました。

CAMPUS-NEWS

学長選挙

現手島学長が8月末に任期満了を迎えるのに伴い学長選挙が実施され、6月23日の予備選挙、6月30日の本選挙の結果、同学長が再選されました。

手島学長は、平成6年4月に総合管理学部が設置されるのと同時に、九州大学から本学に学部長として赴任され、同年9月に学長に就任されました。今回で2期目となり、本学学長選考規程の規定により、再任に係る任期は2年となります。

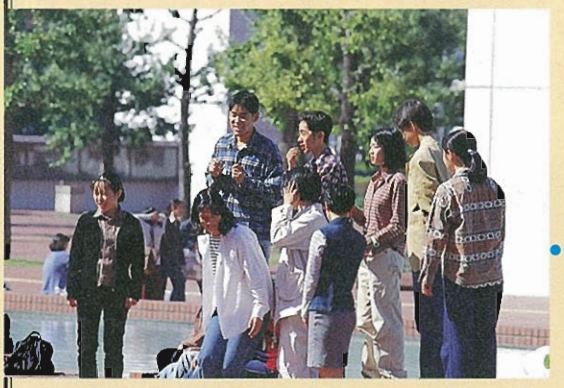
「環境共生学部」の設置認可申請がされる

生活科学部を改組し、新たな理念に立つ自然科学系の学部である「環境共生学部」を平成11年4月に設置すべく、この4月に文部省に設置認可の申請がされました。

この「環境共生学部」は、環境共生にかかわる諸問題を総合的に捉え、人間活動を支える場としての豊かな自然を保全しつつ、持続的に利用し、地域住民の快適で健康な生活を確保する方策すなわち自然環境と人間活動の共生の方策を追究し、地域の発展と人間福祉の向上を目指すことを理念とし、「生態・環境資源学専攻」、「居住環境学専攻」、「食・健康環境学専攻」の3つの専攻から構成される予定です。

なお、この環境共生学部を設置するため、生活科学部棟の東側に、新しく5階建ての校舎などを建築します。平成12年3月完成予定で、来年1月にはその工事が着工されます（それに先立ち、本年11月頃から生活科学部棟東側の道路の工事などが実施されます。）。また、現在の生活科学部棟も、改修が行われる予定となっています。

※　この「環境共生学部」の設置が認可されると、生活科学部の学生募集は停止される予定です。



第21回全日本大学軟式野球選手権大会出場

熊本県立大学軟式野球部が、平成10年度南九州地区大学軟式野球春季リーグ戦において初優勝し、南九州代表として全国大会に出場します。

大会は長野県小諸市を舞台に、8月6日（木）に開幕し、本学軟式野球部は7日（金）に東洋大学と1回戦を戦います。昨年は、各リーグの2位のチームを集めて開催される全国大会に出場し、ベスト4の実績をあげているだけに今年の戦いぶりも期待されます。

また、全国大会後の8月27日（木）からメキシコで開催される国際大会に、全日本選抜チームの一員として総合管理学部3年野田恭右君（投手）が出場することが決定しており、全国大会と同様海外での活躍も期待されます。

なお、全国大会出場に伴い知事表敬訪問や壮行会も予定されています。

ここ数年野球部の活躍が目立っていますが、その他のサークルも全国大会等に出場し活躍してくれることを期待しています。

企業のトップ12名が講師に！教養科目「地域社会と企業」

今年度新しく開講した教養科目「地域社会と企業」は、総合管理学部の立山教授が全体のコーディネーターとなり、県内の複数の企業経営者を講師に招いて、オムニバス形式で、地域社会と企業の関わりを企業経営者の視点から論じていただくものです。今年度は、次の12名の方々に講義をいただきました。

（講義開催日順）

㈱テクノアート　代表取締役社長　松脇秀三郎　氏
㈱福田農場ワイナリー　代表取締役社長　福田　興次　氏
金剛㈱　代表取締役社長　宮﨑　邦雄　氏
㈱熊本ホテルキャッスル　代表取締役社長　藤岡　雅彦　氏
㈱同仁化学研究所　代表取締役社長　上野　景右　氏
㈱肥後銀行　頭取　稲垣　精一　氏
亀井通産㈱　代表取締役社長　亀井創太郎　氏
㈱熊本放送　代表取締役社長　小堀　富夫　氏
フンドーダイ㈱　代表取締役社長　大久保太郎　氏
㈱熊本日日新聞社　常務取締役　久野　啓介　氏
九州オルガン針㈱　代表取締役社長　廉澤　之敏　氏
㈱鶴屋百貨店　代表取締役社長　中尾　保徳　氏

「大学院アドミニストレーション研究科博士課程準備委員会」の設置

本年4月に、総合管理学部を基礎とする大学院アドミニストレーション研究科（修士課程）が全国で初めて開設され、第一期生17人が今春入学し、学び始めています。

このアドミニストレーション研究科に、更に、「博士課程」を平成12年4月に開設することを目標に、「大学院アドミニストレーション研究科博士課程準備委員会」が、5月25日設置されました。

「熊本県立大学の現状と課題1998」（自己点検・評価報告書）刊行、公表される

本学自己点検・評価委員会（委員長：手島学長）では、本学の教育研究活動、学内組織等の現状について、教職員自らで点検・評価を行い、本学の長所及び問題点等をまとめた「熊本県立大学の現状と課題1998」を刊行し、公表しました。今回は、前回報告書の点検・評価項目に加え、大学広報などについても新たに点検・評価を実施しました。なお、当刊行物は学内では図書館などで閲覧できます。

大学基準協会維持会員校として登録される

本学は昨年度（財）大学基準協会[注1]が実施している維持会員加盟判定審査（外部評価[注2]）を受検し、本年4月1日付けで九州の公立大学では初めて維持会員校として登録されました。

今後は、審査結果を本学の充実・発展のために生かしていくこととしております。

注）1　自己点検・評価の点検項目、実施方法等について調査・研究を行っている大学評価機関。

注）2　本学教職員以外の第3者の有識者によって本学の現状について評価を行うこと。

城島先生に名誉教授の称号が授与される

今年3月に退任された城島邦行先生（元生活科学部教授）に、5月25日、名誉教授の称号が授与されました。

「名誉教授」の称号は、本学に多年勤務され、教育上・学術上特に功労のあった先生方に授与されます。「熊本女子大学」時代に26名、「熊本県立大学」となってから7名の先生方に、授与されています。

Schedule

月	日	内容
H10 4月	1日	■大学院アドミニストレーション研究科(修士課程)開設
	1日	■大学基準協会維持会員校として登録される
	6日	■在学生オリエンテーション
	7日	■米国インカーネットワード大学(テキサス州)学長来学
	7日	■公務員ガイダンス
	8日	■入学式(県立劇場)
	8日	■新入生オリエンテーション(～9日)
	10日	■授業開始
	30日	■環境共生学部設置認可申請
5月	2日	■開学記念日
	14日	■米国モンタナ州立大学ボーズマン校来学学長表敬
	25日	■名誉教授称号授与(城島元教授)
	25日	■大学院アドミニストレーション研究科　博士課程　準備委員会設置
6月	13日	■中学・高校英語教員向けリレカント講座プレセッション(～14日)
	23日	■学長選挙予備選挙
	24日	■九州インカレ夏季競技大会(～7月13日)
	27日	■祥明大學校短期学生研修団来学(～7月6日)
	30日	■学長選挙本選挙
7月	3,9日	■就職ガイダンス
	4日	■清鈴祭(学園祭「白亜祭」プレイベント)
	11日	■夏季休業(文学部、生活科学部)(～9月6日)
	13,16日	■公務員ガイダンス
	27日	■前期試験(総合管理学部)(～31日)
8月	1日	■夏季休業(総合管理学部)(～9月30日)
	3日	■大学説明会(高校教員向)
	9日	■オープンキャンパス
	10日	■中学・高校英語教員向けリカレント講座サマーセッション(～14日)
	中旬	■授業公開講座(後期)社会人受講者募集(～9月上旬)
	下旬	■米国モンタナ州立大学ボーズマン校(1名)及びビリングス校(3名)短期留学生派遣
9月	7日	■授業再開(文学部・生活科学部・全学共通科目)
	14日	■入学試験(大学院アドミニストレーション研究科(前期))(～15日)
	24日	■前期試験(文学部、生活科学部、全学共通科目)(～30日)
	未定	■企業見学会
10月	1日	■後期授業開始
	13日	■入学試験(大学院文学研究科(前期))
	中旬	■「就職懇談会」(仮称)
	未定	■公開講演会(～12月までに2回実施予定)
	未定	■地域講演会(～12月までに県内3市町村で実施予定)
	未定	■学内公務員試験対策講座開講(～平成11年6月)
11月	7日	■学園祭「白亜祭」(～8日)
	14日	■九州インカレ冬季競技大会(～23日)
	中旬	■就職シンポジウム(仮称)
	未定	■中学・高校英語教員向けリカレント講座フォローアップセッション
12月	6日	■入学試験(特別選抜)
	上旬	■学内公務員模擬試験開始(～平成11年5月)
	24日	■冬季休業(～1月9日)
H11 1月	上旬	■教員ガイダンス
	10日	■入学試験(生活科学部　推薦入学)
	11日	■授業再開
	16日	■大学入試センター試験(～17日)
2月	3日	■後期試験(～12日)
	上旬	■祥明大學校短期留学生派遣
	13日	■入学試験(大学院アドミニストレーション研究科(後期))(～14日)
	16日	■入学試験(大学院文学研究科(後期)、私費外国人留学生)
	中旬	■就職セミナー適宜
	中旬	■モンタナ州立大学英語研修団派遣
	25日	■入学試験(一般選抜(前期))
	下旬	■授業公開講座(11年度前期)社会人受講者募集(～3月中旬)
3月	12日	■入学試験(一般選抜(後期))
	14日	■卒業式(県立劇場)
	中旬	■祥明大學校短期留学生来学
	25日	■春季休業

編集後記

夏季休業に入り、学内を歩く学生の数も減ってきました。それぞれの充実した夏休みをおくってほしいと思います。

今号は、大幅な紙面刷新をした前号を基本的には踏襲して編集しました。本学は、特集でもとりあげたとおり、今春、県立大学となって初めての卒業生がでて、モンタナ州立大学との学生交流も開始され、また、来年には環境共生学部の設置も予定されています。

今後も、この学報「春秋彩」で、そんな本学の動きや普段の様子をわかりやすく学内外の皆様にお伝えしていきたいと思っております。

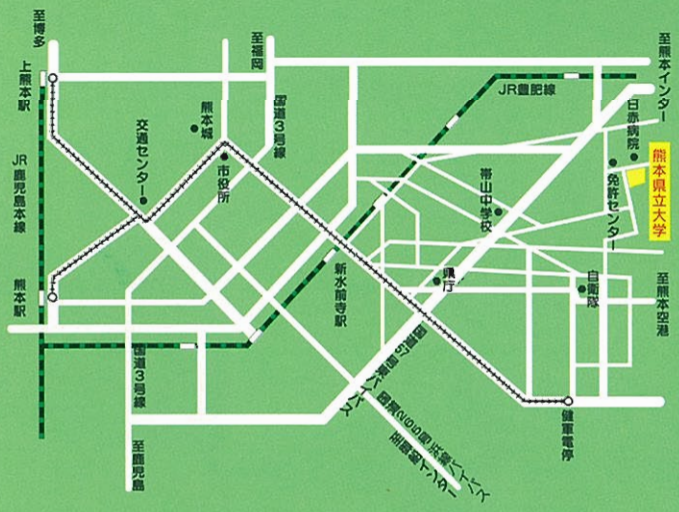
最後に、お忙しい中、原稿を書いていただいた皆様に感謝申し上げます。

ご意見感想募集

本誌についてのご意見、ご感想を下記にお寄せください。みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いします。

〒862-8502（住所記載不要）
熊本県立大学事務局総務企画課　「春秋彩」担当行
FAX:096-384-6765 E-Mail:gakuho@pu-kumamoto.ac.jp

■位置・アクセス



●バスを利用する場合
JR熊本駅よりバスで約10分、交通センター下車。交通センターのC番のりばから、長嶺団地行き、または日赤経由月出行きバスで約40分、日赤病院前、または県立大通りで下車、すぐ。（駅前の市電通りのバス停より、ほぼすべてのバスが交通センターを経由します。）

●タクシーを利用する場合

熊本駅から	所要時間…約40分	料金…約3,000円
水前寺駅から	所要時間…約15分	料金…約1,200円
熊本空港から	所要時間…約30分	料金…約3,000円

熊本県立大学

PREFECTURAL
UNIVERSITY
OF KUMAMOTO

発行：熊本県立大学
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL.096(383)2929(代) FAX.096(384)6765

10 総 熊県大
③ 001

古紙配合率40%再生紙を使用しています